

# 道徳科 学習指導案

2019年6月7日（金）学習指導 I （5の3教室）2年2組 指導者

I 主 題 広がる心の温かさ

II 考 察

1 主題観

(1) 育成を目指す資質・能力の三つの柱

①知識及び技能

困っている人に親切にすることのよさ  
についての理解

②思考力，判断力，表現力等

困っている人に親切にすることについての  
自己の考え

③学びに向かう力，人間性等

困っている人に親切にしようとする意欲と態度

(2) 学習内容：学習指導要領上の位置付け

B 主として人との関わりに関すること

7 親切，思いやり〔第1学年及び第2学年〕

身近にいる人に温かい心で接し，親切にすること。

(3) 主題と教材の価値

本主題は「親切，思いやり」の内容項目のうち，困っている人に親切にすることについて考える学習である。その価値は以下のとおりである。

相手に温かい心で接し，親切にすることは大切である。そうすることで，互いが相手の存在を受け入れ，相手の気持ちや置かれている状況を想像しながら助け合い励まし合って，よりよい人間関係を築くことができるからである。特に，困っている人に親切にすることは，相手の心を支え満足感を与えるとともに，自分の行為に対する充実感を得ることもつながる。したがって，困っている人に親切にしようとする意欲と態度を身に付けていくことが大切となる。

第2学年の子どもたちは，学級活動を始めとする話し合い活動において相手の意見のよいところを見付けようとしたり，休み時間において遊びに交ぜて欲しいと訴える友達を快く受け入れたりするなど，相手に対して温かい心をもって生活してきている。その一方で，授業中に隣の席で教科書を忘れて困っている友達がいても一緒に見ることを提案せずに一人で学習を進めたり，給食準備中に目の前で汁物をこぼしてしまった友達がいても気にせず自分の席に着く姿も見られる。これは，友達が困っていることを認識しつつも，自分のことを優先させたり自分にできることはないと決めつけたりしているからだと考えられる。このような子どもたちが，困っている人に親切にすることについて考えることで，相手も自分も温かい気持ちになることに気づき，困っている人に親切にしようとする意欲と態度を養うことができる。

そこで，教材「ぐみの木と小鳥」を使用する。教材の内容及び価値は，次のとおりである。

主人公の小鳥は、お腹がすいていて困っているところに、ぐみの木から実をもらう。その際、小鳥は、ぐみの木の友達のりすが最近姿を見せないことを聞き、ぐみの実をくわえて何度もりすの様子を見に行く。そして、小鳥は嵐の日も力を振り絞ってりすの所へ飛んで行き、りすやぐみの木に感謝をされる、という内容である。

嵐の日もりすの所に行った主人公の姿から、子どもたちは困っている人に親切にすることについての問題意識を高めることができる。また、ぐみの木が小鳥に実をあげた行為や小鳥がりすの様子を見に行った行為に対する三者の心情に着目することで、相手も自分も温かい気持ちになるとともに、さらなる思いやりが生まれるというよさに気付くことができる。

#### (4) 今後の学習

ここでの学習は、2年「つたわった気持ち」での、相手に喜んでもらえるように、相手のことを考えて親切にすることについて考える学習へと発展していく。

#### 2 児童の実態及び指導方針

子どもたちは、2年「すてきな学校」において、年下の子どもの気持ちを考えて優しく接することについて考える学習をしてきた。この学習の中で明らかになった子どもたちの実態及び本主題を進めるにあたっての指導方針は、次のとおりである。

- ① 年下の子どもの気持ちを考えて優しく接すると、年下の子どもが嬉しい気持ちになるというよさを理解してきている。このような子どもたちが、困っている人に親切にすると、相手も自分も温かい気持ちになるとともに、さらなる思いやりが生まれるというよさを理解できるように、主人公が相手のために親切にする理由に関わって、大切だと思ったことを共有する機会を設定する。
- ② 年下の子どもに優しく接することについて、自分との関わりで多面的・多角的に考えてきている。このような子どもたちが、困っている人に親切にすることのよさについて、多面的・多角的に考えられるように、三者の登場人物の絵を提示し、子どもの考えに応じて行為や心情を表す矢印を板書する。
- ③ 年下の子どもの気持ちを考えて優しく接してきている。このような子どもたちが、困っている人に親切にしようとする意欲と態度を養えるように、振り返りの際に、困っている人に親切にすることのよさを捉えた上で「これからしていきたいこと」の視点を提示する。

#### Ⅲ 指導計画 ※Ⅲについては、別紙参照

#### Ⅳ 本時の学習（1／1時間目）

- 1 ねらい 小鳥が嵐の日にりすの所に行った理由について話し合うことを通して、困っている人に親切にすると相手も自分も温かい気持ちになるとともに、さらなる思いやりが生まれるというよさに気づき、困っている人に親切にして生活しようとする心情を養う。
- 2 準備 ぐみの実の画像 登場人物の絵 学習プリント
- 3 展開

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
1 教材を読み、学習課題をつかむ。 ・ぐみの実をもらったら、ありがとうって言	○相手に親切にされた時の自分の考えを確認できるように、ぐみの実の画像を提示し、空腹時に

うよ。何かお手伝いをするのもいいね。

- ・ぐみの木は優しい。小鳥にぐみの実をあげたから。りすは病気だから、きっと心細いと思うよ。小鳥はぐみの実をもらって、そのお礼にりすのお見舞いに行ったよ。
- ・小鳥はよく嵐の日にもお見舞いに行ったよね。私だったら、ぐみの実をもらってありがとうは言うけれど、ここまではできないな。なぜそこまでできるのかな。

学習課題「どうして小鳥は、嵐の日もりすの所に行ったのだろう」

2 学習課題の解決に向けて話し合う。

- ・ぐみの木だと思うよ。実をもらった恩返しで、りすが治るまで行こうと思ったのではないかな。
- ・「病気のりすが心配だから」も分かる気がするな。りすは心細そうだもん。
- ・そうすると、みんなの考えは、「ぐみの木のため」と「りすのため」と「自分のため」に分けられるのだな。
- ・特に、小鳥は、ぐみの木とりすのために行ったのだと考えられそうだね。
- ・りすは、病気が治ったら、ありがとうの気持ちをもつし、きっと小鳥にも何かしてあげたいって思うよ。ぐみの木もお礼にまた小鳥に実をあげるのではないかな。
- ・親切にされたらみんな嬉しくなって、恩返しをしたくなるところが似ているよ。そうしたら、もっともっと思いやりの矢印が増えていきそうだね。
- ・小鳥は、優しくしてくれたぐみの木や、病気で心細いりすのために、嵐の日にもりすのところに行ったのだね。
- ・人に親切にしたら、その親切がどんどん広がっていくことが大切だと思ったよ。

3 これからの自己の生き方への思いについて考える。

- ・嵐の日には友達のところ親切をしないけれど、給食をこぼして困っている友達がいたら助けてあげたいな。

ぐみの実をもらった時の行為を問いかける。

- 教材「ぐみの木と小鳥」の内容を把握できるように、範読後に三者の登場人物の絵を提示し、行為や心情、状況を整理して板書する。
- 困難な状況でも困った人に親切にすることについての問題意識を高められるように、嵐の日もりすの所に行った主人公の行為と自分が空腹時にぐみの実をもらった時の行為を比較した感想を問いかける。

- 学習課題に対する考えを自分なりにもっていない子どもには、そのきっかけを得られるように、小鳥の行為の対象を問いかける。

- 小鳥の行為の対象がぐみの木やりす、小鳥自身であることに気付けるように、出された考えの中で似ている考えを問いかけ、ぐみの木とりす、小鳥に関わる考えをそれぞれ色別に囲む。

- 困っている人に親切にすることについて、小鳥以外の立場からも考えられるように、小鳥の行為に対するりすやぐみの木の心情を問いかけ、思いやりの向かう先を矢印で板書する。

- 困っている人に親切にすることのよさに気付けるように、三者の心情で似ているところや矢印の数の変化を問いかける。

- 困っている人に親切にすることのよさを自覚できるように、相手のために親切にする理由に関わって大切だと思ったことを問いかける。

評価の視点

困っている人に親切にすることのよさについて、多面的・多角的に考えたことや、自分との関わりで考えたことを、発言したり記述したりしている。

<発言・学習プリント①②③>

- 困っている人に親切にすることを、自分の生活と結び付けられるように、「これからしていきたいこと」の視点を提示する。

- これからの生活への意欲をもてるように、生活の見通しを具体的にもてたことを称賛する。

指導計画（全1時間）

ね ら い	<p>小鳥が嵐の日もりすの所に行った理由について話し合うことを通して、困っている人に親切にすると相手も自分も温かい気持ちになるとともに、さらなる思いやりが生まれることに気づき、困っている人に親切にして生活しようとする心情を養う。</p>	
教材	<p>ぐみの木と小鳥</p>	
主題 構成	<p>導入では、ぐみの木から実をもらった小鳥が、ぐみの木の友達で、病気で寝込んでいるりすの所に行くことについての感想や疑問を話し合うことで、困難な状況においても困っている人に親切にすることについての問題意識をもつことができる。展開では、小鳥が嵐の日もりすの所に行った理由を基に、ぐみの木が小鳥に実をあげた行為や小鳥がりすの様子を見に行く行為に対する三者の心情に着目することで、困っている人に親切にすることのよさに気付くことができる。</p>	
過程	<p>学習活動</p>	<p>評価の視点&lt;評価方法&gt;</p>
導入	<p>○教材を読み、学習課題「どうして小鳥は、嵐の日もりすの所に行ったのだろう」をつかむ。</p>	
展開	<p>○学習課題の解決に向けて話し合う。</p>	<p>◇困っている人に親切にすることのよさについて、多面的・多角的に考えたことや、自分との関わりで考えたことを、発言したり記述したりしている。  &lt;発言・学習プリント①②③&gt;</p>
終末	<p>○これからの自己の生き方について考える。</p>	
他の 教育 活動 との 関連	<p>・日常生活の中で、親切にする場面 例：教室の落とし物を持ち主に届ける場面 忘れ物をした友達に、教科書を見せたりコピーを貸したりする場面 けがをした友達を保健室に連れて行く場面 休んでいた友達にノートを見せて学習したことを教える場面 給食をこぼした友達のために、ぞうきんを持ってきて床を拭く場面</p>	